

着物を着る時に欠かせない和装履物。

今回は、東京・浅草で明治時代から続く和装履物専門店「まつもと履物店」四代目、若旦那・松本健司さんに草履の選び方を教えてもらつた。

「今では、あらかじめ鼻緒がすげられ

た既製品を選んで買うスタイルが定着してしまいましたが、本来、和装履物は、お客様が好きな台と鼻緒を選び、自分の足に合わせて鼻緒をすげてもらうものなのです。痛かったり、緩すぎて歩きにくくとも、既製品では鼻緒の調整ができません。ですから、足に合わせて、しっかりと鼻緒をすげてくれる店を選ぶのが大事なポイントのひとつです」

草履は、既製品で3000円、鼻緒をすげてもう1万2000円前後が標準的。後者は値は張るが、既製品をすげかえたり、底を張りかえて使えば、革なら10年持つこともあるという。とはいっても、近くに専門店がなく、既製品を買わざるを得ない場合もあるだろう。そこで、どこで買うにも役に立つ、草履選びの基本を伺つた。

「男性・女性用とも素材は革、布、ビニール、エナメルなどで、底裏には牛革やウ

レタン、フエルト(室内用)などが使われます。女性用は、一般にかかとの高いものが礼装用、低いものは普段用で、普段用のかかとの高さは一寸(約3センチ)が標準的です。弔事用には艶消しの黒が適切です。雪駄は草履の一種で、本来は竹で編んだものをいいますが、最近はビニールで色や風合いを似せたものも雪駄

適切です。雪駄は草履の一種で、本来は竹で編んだものをいいますが、最近はビニールで色や風合いを似せたものも雪駄

と呼ぶことがあります

サイズは基本的に5分(約1.5センチ)刻みで、フオフ分(約2.5センチ)のように表示されるが、最近はわかりやすいようにSMLでの表示が増えているといふ。

「草履は、鼻緒と足の親指と人差し指の股の間に指が一本入るぐらいの隙間がある状態で、足全体に鼻緒がフィットする」と説いていた。鼻緒と親指と人差し指の股の間に指が一本入るぐらいの隙間がある状態で、足全体に鼻緒がフィットする

と動かない状態が足に合った状態です。

無理に奥まで指を入れると、指の股が痛くなってしまいます。かかとが少し出る方が歩きやすく、台から1~1.5センチ出るのが適切なサイズです。足袋を履いて使用するなら、足袋持参で試し履きを。試し履きができない場合は、草履に手を入れてみて。手が奥まで入らないようだと足もきつくて入りません。また、一度、よじれると鼻緒が裏返る癖がついてしまうので、初めて履くときは鼻緒がよじれないよう注意してください」

草履に雨は禁物だ。雨に降られたら、しっかり陰干しして乾かそう。どんなによい草履を買っても、手入れ怠れば寿命は縮む。お気に入りの草履を選び、粹に履きこなしたいものだ。



↑手は足の形を反映しているそう。試し履きができないときは草履に手を入れてみると足を入れた時の感覚がわかる



↑鼻緒と親指と人差し指の股の間に指が一本入るぐらいの隙間がある状態で足全体に鼻緒がフィットするものがよい



↑雪駄の革かかとは、テクター(左)と馬蹄(右)の2種の「てつ」があり、テクターは歩くたびに音が鳴ることで、音を楽しむ



↑底にすげ用の穴がないものは鼻緒を調整することができない。ただし穴だけ似せて作ったものもあるので注意



↑女性用の草履の高さは標準的なもので約3cm、礼装用の場合で4~5cm。7~10cmの舞台用のものもある



↑「草履や下駄といった和装履物は、本来はお客様が好きな台と鼻緒を選び、自分の足に合わせて鼻緒をすげてもらうものなんですよ」と松本さん

## 松本健司さんプロフィール

和装履物専門店「まつもと履物店」四代目 若旦那 昭和52年生まれ。東京都台東区出身。明治32年創業の浅草ひさご通り商店街「まつもと履物店」の四代目。両親からは「家業は継がなくてよい」と言われていたため、大学卒業後はシステム開発の仕事に就く。が、10年前、自ら進んで家業を継ぐ。趣味はパソコンと競馬。休日は、足の赴くまま、列車に飛び乗り、小旅行を楽しんでいる。



取材協力

和装履物専門店「まつもと履物店」  
台東区浅草2-22-11 ☎03-3841-2461  
<http://www.wasou-hakimono.com/>

BESTパートナー  
三井生命

あなたと三井生命を結ぶ  
ベクトルライフ



ベクトル

Life

9月号  
2013年  
Vol.157

People

佐藤 健  
俳優



Master

目利きの学校  
草履の選び方



# 朝活のすすめ

時間に追われず、時間を管理



Close Up

Cooking



本道佳子の  
五感が喜ぶクッキング  
夏野菜の焼きポン酢